

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271400980		
法人名	社会福祉法人 南有会		
事業所名	グループホーム望		
所在地	長崎県南島原市南有馬町丁306番地1		
自己評価作成日	令和3年10月22日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で生活出来る様支援している。又、利用者様のやりたい事が実現出来る様努めている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは周囲には田畑が広がり農作物から季節を感じる事ができる。「自分がされて嫌なことはしない」という理念のもと、常に入居者の立場を考慮した支援に取り組んでいる。日頃より地域の消防団や自治会長との連携を図り、避難訓練にも参加されている。管理者は職員の意見を傾聴し、働きやすい職場環境作りに努めている。職員は自らの意見が運営に反映される事で就労意欲の向上にも繋がっている。職員同士のチームワークも良く、言葉掛けなども気づいた時には互いに注意しあえる関係を築いている。週1回、協力医がホームへ訪問し、入居者の健康管理のほか医療的な相談にも迅速に対応してもらい、入居者、家族の安心に繋がっている。居室は畳とフローリングの2種類あり、入居者の希望に沿って、入居前の生活スタイルが継続できるよう配慮している。管理者をはじめ全職員が入居者を尊重し、暖かい雰囲気のあるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を目につく所に貼って共有し、実践につなげている	ホームの理念を事務所内と食堂に掲示し、職員は常に確認しながら介護の実践に取り組んでいる。毎月の会議で振り返りの機会を作り、理念でもある「自分がされて嫌な事をしていないか」を確認し話し合っている。新規採用時には管理者が理念を説明し、職員が理解にた上で業務に従事している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響があり以前と比べると交流は減ってきている。	コロナ禍以前はボランティアの受け入れや、高校生の実習を受け入れ、敬老会には家族や地域住民を招待していたが、現在は困難となっている。管理者はコロナ禍でも可能な地域との交流方法を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談があれば、電話で対応している。 又、来所され相談があれば都度対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で日常の様子を報告している。その中でアドバイスを受けサービス向上に役立っている	運営推進会議には福祉課職員や老人会、自治会長や家族の代表が参加している。尚、コロナ禍により今年度は書面会議を実施している。避難訓練の報告に対し、推進会議構成メンバーより「避難に時間がかかっている」との意見を頂くなど、報告だけでなく、相互の意見交換ができています。	運営推進会議は2カ月に1回開催されているが、書面会議の際の日付や参加者(書面配布者)が分かりづらい。また、議事録は家族へ郵送していない。運営の透明性を図る為にも議事録には開催日時及び参加者を明記すると共に会議内容を家族にも周知できる方法を検討することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや疑問に思った事などは積極的に質問をし、アドバイスを受けている。	市の担当者とは運営推進会議への参加以外にも、日頃より連携を図っており、直近では生活保護に関する入居者の対応について相談した。コロナ禍により参加する回数は減少しているが、市が主催する研修会の案内には職員が交代で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない様、また身体拘束にならない様に月に一回の職員会議でも身体拘束について職員間でも話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは身体拘束に関する指針を整備し、職員間で共有している。ホーム内の居間には「身体拘束にあたる11項目」を掲示し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。ホームから離設する可能性を考慮し、地域の自治会長へ協力を依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解を深める為に研修があれば積極的に参加している。虐待をしない事を当たり前と考え、その為にどうすればいいかをスタッフ間でも話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がおり、分からない事や疑問に思った事などを後見人の方に質問している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に利用者様やご家族様にしっかり説明し、理解して頂く。又その時だけでなく日常の連絡の中でも疑問点や不安な事などを尋ね、理解・納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の事務所の前に意見箱を設置し意見や要望を受け付けれるようにしている。又、意見箱でなくとも直接利用者様やご家族様の意見をうかがい可能な範囲で反映している	コロナ禍により面会制限を行っているため家族の訪問は少ない。ホームの玄関には意見箱を設置している。家族へ入居者の状態報告等で電話連絡した際に、家族の意見を伺うようにしている。コロナ禍で面会が難しい中、家族の意向を踏まえ、感染対策を講じながら窓越しで面会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議の中で意見を聞く機会を設け、可能な範囲で反映させている	管理者は毎月の会議時や、必要時に職員から意見を聞くよう心がけている。資格試験の受講料を補助するなど職員が資格取得ができるようバックアップ体制を整えている。入居者の介助の際に狭かった浴室を広くしたり、送迎時に入居者が濡れないように玄関先に屋根を設置するなど職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやる気を持って働ける様環境や労働条件を配慮してもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を援助するシステムがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート研修などに参加したり他の事業所と連絡を取り合い、同業者の意見やどのようなサービスをされているか等のアドバイスを受けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は不安になられる事が多い為、特に本人に寄り添って困っている事や不安に感じている事を受け止め安心して生活出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に利用者様の生活歴や要望をしっかりと聞く場を本人も交えて作っている。又、ご家族様が本人には言いにくい事などがあると、別に対応する様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番の困りごととは何なのかを考え、他のサービス等を検討しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事をして頂くだけではなく、その後「ありがとう」やねぎらいの言葉を忘れないようにしている。そうする事で一緒に暮らす者同士で助け合って生活出来ているという信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に困り事や悩み事があると家族に相談したり、又、希望があれば本人とご家族様との話し合いの場を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な時は馴染みの方にきていただいたり、出掛ける事で関係が途絶えない様にしている	ホームの近隣に在住している入居者の馴染みの方を把握し、電話で話をしてもらったり、面会の声掛けをするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。入居者の希望により馴染みの理髪店に連れていくなど支援を継続している。管理者はコロナ収束後には家族との外泊支援なども行う意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が上手くいく様職員が間に入ったりする事で関係や関わりが終わらない様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様から相談が有れば対応するなどの支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの生活歴を頭に入れ本人の気持ちに寄り添う事で希望や意向の把握に努めている	職員は入居者の個人記録に、入居者本人の日常の会話や個別に話を伺った中で把握した思いや意向を記録している。把握した情報は申し送りや毎月の会議を通じて全職員で共有し、入居者の思いや意向に沿ったケアの実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅支援事業所やご家族様からの情報を得てこれまでの経過や生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が何をどこまで出来るのか、動きや仕草など職員間で共有する様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や担当者会議・申し送り等を活用し話し合い、その時の状態に合わせた計画を作成している	事前に本人と家族に意向を確認し、毎月のモニタリングと日々の記録をもとに、会議で職員が意見を出し合い、入居者に適した介護計画を立案している。介護計画は個人記録に綴じ、職員が介護計画の内容を確認しながら日々のケアや記録が行えるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や利用者様の想いの訴えがあると記録し申し送りや職員会議等で話し合い職員間で共有する事で、ケアや計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様から希望があれば可能な限り随時対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人の支える地域資源は何かを考え、可能な限り祭りやイベントに参加する様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様本人やご家族様の意向を踏まえ、かかりつけ医を選択している。受診には職員も同行し、かかりつけ医と連携が保てる様支援している	医療機関への受診にあたり、本人、家族の希望により入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう配慮している。定期受診は遠方であっても職員が行い、結果については電話で家族へ伝えている。週1回、協力医が訪問し、医療的な相談も迅速に対応されており、入居者、家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員と常に情報交換し、適切な受診や看護が受けれる様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中病院やご家族様と定期的に連絡をとり状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所時にも確認するが、その時だけではなく状態に応じてご家族様と話し合いを早めに行い、可能な限り希望に添える様に努めている	入居時にホームでの終末期における対応等を説明している。終末期を迎えた場合は家族の希望を尊重し、協力医を中心に看取りの態勢を整えている。現在は看取りの希望がなく、医療的処置が必要となった場合は医療機関へ入院となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、職員の目に付きやすい所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や地震を想定し避難訓練を定期的に行っている。地域の方やご家族様にも緊急連絡網に入ってもらっている	定期的に設備点検や避難訓練を実施し、有事の際には迅速に行動できるよう努めている。コロナ禍の為、前年度より地元消防団の参加は控えているが、ホームより地元消防団へ消防訓練への参加を依頼し協力を得ている。ホームの緊急連絡網に自治会長・民生委員・家族が入っており地域の協力体制を構築している。	非常持ち出し用の入居者一覧の情報不足が窺える。避難先での円滑な生活を考慮し、必要な情報を整備することが望ましい。災害時の役割分担が個人名でなされている為、勤務シフトでの休暇日を考慮し、有事の際に勤務している職員が確実に行動できるよう役割分担を検討することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを尊重し、声掛けや支援方法など考えながら対応している	入居者個人を尊重する中で、家族より入居者への呼び名の希望もある。職員のスピーチロックや支援方法で気になる場面があった場合は会議で話し合い、個人を尊重したケアの実践に努めている。居間で失禁等があった場合も周りの入居者に気づかれぬよう静かにトイレに誘導するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの能力に応じて対応し、自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、利用者様の生活習慣や希望に近づける様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は馴染みの美容室に行かされている。行く事が難しい方も美容室に出張してもらっている。 洋服は利用者様に選んで頂き、同じ洋服が続かない様職員も声掛けしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には一緒に調理や下ごしらえをして頂いている。又、調理が難しい方でも調理方法などアドバイスをもらったり、調理に参加して頂いている	食事は食材や入居者が食べたい物を考慮し、ホームの職員がメニューを考え、交代で調理している。食材の皮むきや、メニューを考えるなど、職員と入居者が一緒に行い入居者が役割を持つことで、楽しみのある食事ができている。入居者の状態に合わせて、キザミ食やミキサー食にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の病気や状態にもよるが、お茶ばかりではなくジュースやコーヒーなど利用者様が好きな物を提供している。又キザミや小キザミとその方に合わせた調理方法をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人一人の状態に合わせた歯磨き・口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや尿取りパットを使用されている方でも、排泄記録を活用し、定期的に声掛け・トイレ誘導をする様にしている	排泄チェック表を活用し、入居者それぞれのタイミングに合わせた声掛けを行っている。入院等でオムツを使用していた入居者に対し、職員間で話し合いながらリハビリパンツへ変更するなど、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動をしていただいたり、野菜や乳製品を活用し便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日その時の状況にもよるが、利用者様からの入浴希望があると入浴してもらっている。又バスクリン等を使って入浴が楽しめる様な工夫もしている	入浴は週に2~3回を基本としているが、本人より希望があれば毎日の入浴も可能である。肌の乾燥予防の為、入浴後には保湿クリームを塗布して対応している。季節のゆず湯やしょうぶ湯のほか入浴剤やお茶湯など、入居者が入浴を通して季節を感じ入浴を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者様一人ひとりの生活習慣に合わせた支援をしている。又、1日起きている事が難しい方は昼から暫く休憩してもらっている。昼間活動して頂く事で夜間の安眠に繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の処方リストを個人記録の見えやすい所にファイルし、どういった薬を服用されているかをすぐに確認出来る様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が自宅で生活されていた時の趣味や特技をいかし、出来る事をしていただく様に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で人が集まるような場所や密になる場所は控えているが、出来るだけ利用者様が施設にこもりつきりにならない様にしている。可能な場所であれば希望に沿った外出支援をしている	コロナ禍以前は大型スーパーに買い物に出かけたり、公園に出かけ外気浴を楽しんでいた。現在はホーム周辺を散歩したり車から降りないようにしてドライブに出かけるなど気分転換を図っている。病院受診の帰りには同じ道を通らないようにするなど、コロナ禍でも閉じこもらない工夫を講じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が使える方はお金を持ってスーパーなどで欲しい物を購入される。又、外出し買い物に行く事が難しい利用者様は職員が代理で買い出しに行ったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って来られている方がおられ用があるとかけられている。持って来られていない方でも施設の電話を使い連絡されている。又、電話も使われるが手紙のやり取りもされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは毎日清掃し清潔保持に努めている。又季節に応じた張り紙や置物を置き季節感を出すなどの工夫もしている	ホールは毎日掃除機とモップを用いて清掃し、清潔に保たれている。コロナ対策として手指消毒と2~3時間毎に換気を行っている。ホールの壁面には入居者と一緒に作成した季節の飾り付けを行い、ホールでゆっくりと過ごしながら季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクレーションをする時は毎回同じではなく、その時その時の利用者様同士の状況や関係を把握し、利用者様が楽しく過ごせる様な配置や席にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着き過ごしやすい様、使い慣れた物やお気に入りの物など、利用者様・ご家族様と相談し可能な範囲で持って来て頂いている。	居室は毎日掃除機とモップを用いて清掃し、清潔に保たれている。入居者は写真や本などを持ち込む方が多く、使い慣れた電気のヒモを持参することもある。入居者や家族と相談しながらベッド等を配置する事で本人にとって居心地の良い空間づくりに取り組んでいる。居室は畳とフローリングの2種類あり、入居者の希望に合わせて選択できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手引き歩行や手押し車歩行、車椅子の自走など出来る所はしてもらっている。又、居室を忘れる方の居室入口には〇〇さんのお部屋と分かりやすい様張り紙をするなどの工夫をしている		